

令和3年 3月 30日

(あて先) 熊本市長

団体名 NPO 法人くまもと新創生プロジェクト

代表者 職名 代表理事

氏名 大村 祐二



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

令和3年 1月 29日付け指令(地活)第60号で交付決定※を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第21条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業
世界に誇る「くまもとの水」啓発応援事業

2 助成事業の実施期間

令和2年 6月 1日 ~ 令和3年 3月 25日

3 助成事業の内容

事業1 くまもとの水 講座の開催

「人にとって水がいかに大事か、飲み物を通して考える。また熊本の水は世界にどう見られているか、外国人と水を学ぶ」「水とは」「水はなぜ大事か」「熊本の飲料」などを交えながら、熊本の水の啓発を行った。

事業2 くまもとの水の手引きの作成

熊本の水がいかに奥深く、奇跡の水であることを啓発する冊子を作成。これをさまざまな場で提供する。

4 事業の成果

講座開催については、コロナ禍ということもあり、24名が集まって頂き、3人の講師が多面的に熊本の水を紹介した。市の水道局や行政関係者、また水にかかわる参加者から高評価を受けた。次年度も続けて行く予定である。手引書は3月に1000部作成したが、当団体で行っている「くまもと元気かい」などの参加者、他200部を配布完了。残りは次年度に渡り講座や会合に無償提供する予定である。これらの展開は今後の熊本市の発展に寄与できるものであった。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書(様式第16号)
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業収支決算書

◆収入決算

項目	金額	内訳
会費		
当該事業による収益		
当該事業に対する寄附・協賛金	120,000	
その他の自己資金	18,000	
当該事業に対する助成申請額	250,000	
その他の補助金、助成金等【D】		
合計	388,000	

◆支出決算 (事業別)

事業名 支出費目	事業1	事業2	事業3	合計
	くまもとの水講座	くまもとの水の手引き 1000部		
人件費				
報償費	30,000	10,000		40,000
旅費				
人件費等合計【A】	30,000	10,000		40,000
役務費				
使用料・賃借料				
事務・消耗品費				
委託費		348,000		348,000
合計	30,000	358,000		388,000

助成申請上限額 (助成種別： ステップアップ 助成)

[事業費 388,000 円- 控除額【E】 0円] × 2/3 =258,667 円

※控除額・超過人件費 (人件費等の合計が事業費の1/2を超えた部分) とその他助成金の合計

人件費等の合計【A】	40,000	}	超過人件費【C】※	0
事業費の1/2【B】	194,000		その他助成金【D】	0
超過人件費【A-B】…【C】	-154,000		控除額【E】	0

※マイナスの場合は0円

◆支出内訳（事業別）

事業1〔くまもとの水 講座〕

人件費	
報償費	講師謝金 @10,000×3人×1回
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

事業2〔くまもとの水の手引き〕

人件費	
報償費	原稿謝金 @10,000×1人×1回
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	小冊子印刷費（デザイン料込）1,000部 348,000円

事業3〔

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

事業報告書

実施年度	令和2年度
事業名	くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業 世界に誇る「くまもとの水」啓発応援事業
事業期間	令和2年6月1日～令和3年03月25日
事業の目的	2022年4月23日～24日に熊本市で第4回アジア・太平洋水サミットが開催される。世界に誇る地下水都市くまもとで、世界的なサミットが行われることの意義は大きい。この期間世界のメディア関係者も大勢やってきて、サミットだけでなく熊本市自体も紹介される。この機会に市民への啓発を通して、将来に渡り熊本の水を全市民がより理解し、県外海外の人をもてなす基にしたい。
具体的な 事業内容	事業1 くまもとの水 講座 日時：令和2年 10月31日 土曜日 開催 午後2時から2時間 場所：あいぽーと 講師：酒販店店主、水前寺参道商店会会長、熊本大学非常勤講師 対象：広く一般市民 講座内容 事業1 くまもとの水 講座 「人にとって水がいかに大事か、飲み物を通して考える。また熊本の水は世界にどう見られているか、外国人と水を学ぶ」「水とは」「水はなぜ大事か」「熊本の飲料」などを交えながら、熊本の水の啓発を行った。会場24名参加 事業2 くまもとの水の手引き オールカラー 24頁 1000部 講座も含め熊本の水を知る基本となる「くまもとの水の手引き」を作成。広く配布。
実施場所	あいぽーと
協力団体	くまもと元気かい、熊本歴史研究会、熊本城の歴史を考える会ほか
事業の効果 ・公益性	これからの熊本市の財産として、市外、県外、海外の方々への「売り」は水をおいて他ならない。熊本市民がそれを理解し、大事にしていく気運の一助になれるカタチづくりを行った。今回のコロナでインバウンドの見通しはわからないが、長期的にグローバル化の波は避けられず、熊本市も外国人在住者は増えていくことは間違いない。そのような社会状況下に熊本市の誇る「熊本の水」を広く知らしめる一助になった。これは今後も進めていき、熊本市の発展に寄与できるものであったと確信している。
次年度以降の 事業展望	続けて講座を開催予定。またもっと多角的多面的に「くまもとの水」を紹介していく。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	熊本市民だけが住む、自分たちだけの熊本市ではなく、住んでみたい街、行ってみたい街に思ってもらえるような街にしていきたい。 そのためには、財産というべき「熊本の水」、その水を日本中のどこの市民より熊本市民が知っていることが熊本市の強みとなると考える。 そして「熊本の水」をもっと磨いていかななくてはならないと思う。 それが将来にわたって発展していく都市像だと考える。